

わかやま 県議会 だより No.21

平成25年[2013]
8月10日発行(年4回発行)

わかやま
ing
和歌山の現在進行形

ユネスコが支援する「世界ジオパーク」認定を目指して
「世界ジオパーク」とは、特徴ある地形や地質などを保護するとともに、
観光や教育に活用し、地域の持続可能な社会・経済発展を目指します。
現在、紀南地域の新宮市や白浜町など9市町村が認定に向け活動中。



熊野川舟下り・屋嶋
(新宮市)

6月定例会号

主な記事

- 2～3面 平成25年6月定例会の概要
- 4～5面 議員の紹介
～あなたのまちの議員を紹介～
- 6面 各委員会の紹介
- 7面 和歌山県中小企業振興条例(仮称)
～県民意見募集～
- 8面 議会活動の紹介
県議会からのお知らせ

豊かな和歌山の資源を活かして

山田 議長 私が一貫して取り組んできたのが、地域に根差した、地域とともに歩む政治です。そして、地元を抱える問題を一つでも多く解決することにより、住む人が安心して暮らせるまちをつくり、地域から県全体を活性化したいと考えています。また、和歌山には多くの歴史や文化、自然など豊かな恵みがあり、このよさを全国へ届けたいと思います。

花田 副議長 私の故郷も風光明媚な景色が広がり、海山の幸も豊富で、環境は抜群です。しかし、少子高齢化で人口減少が進行してい

ます。この地域にもう一度子ども元気な声をこだまさせることが政治の重要な役割だと感じています。そのために、若者の定住化が不可欠な問題です。

議長 若者が夢を持って暮らせる環境をつくるためには、和歌山の資源を活かしたバランスのとれた社会を構築したいと考えます。和歌山には総合的な地域力があるんです。

副議長 近くには関西国際空港もあり、世界に向けた物流のポテンシャルも高水準です。その点にも



山田 正彦 議長

地域経済の活性化と 県民生活の向上をめざす

新しく就任した議長・副議長にこれからの和歌山について語っていただきました。

さらなる地域経済発展のために中小企業振興条例を

議長 夢と希望を持ち、安心して暮らすためには、まず働く場所とよりよい地域環境の確保が重要です。和歌山には、約4万社の企業があり、約24万人が働いています。そのうち企業数の約99.9%、従業員数の約87%が中小企業で、県の経済は中小企業が支えていると言っても過言ではありません。

副議長 特に本県では、少子化の進行や県外への人の流出で人口減少が顕著であり、それに伴って物やサービスの消費が減り、それらを提供する中小企業は厳しい経営環境となっています。ただ、逆の見方をすれば、中小企業が元気に

なることで県の経済は活性化し、県民の暮らしが豊かになり、それによって和歌山に住みたいと思う人が増え、定住人口が増加するという理屈も成り立ちます。

議長 そのため、県議会では、経済の原動力である中小企業の振興を図ることで県経済を発展させ、県民の生活を豊かにすることを目的に、「中小企業振興に係る条例案検討会」において、中小企業振興の道しるべとなる「和歌山県中小企業振興条例」(仮称)の制定に向け、検討を重ねています。



花田 健吉 副議長

副議長 私たちは、活力ある和歌山の実現のため、中小企業の振興を図るだけでなく県全体を元気にし、和歌山の魅力を高めることのできる条例にできればと考えています。

詳しくは、7面の「和歌山県中小企業振興条例」(仮称)へ

